

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 年 月 日

協議会名: 広陵町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
奈良交通株式会社	コミュニティバス「広陵元気号」 (中央幹線、南部支線、北部支線)の運行	広陵町地域公共交通網形成計画どおりに運行した。	A	計画どおり適切に実施された。	B 令和元年10月の運行再編及びその後の新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響等により、定量的な目標は達成できなかった。 (目標)利用者54,487人/年 (実績)利用者33,292人/年	今後も利用者の実態調査を行うなど、真に必要とされる持続可能な公共交通を目指していく。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名:	広陵町地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>当町は奈良盆地の中西部に位置し、面積は16.30km²、人口は約35,000人の町である。</p> <p>近年では生産年齢人口の減少・高齢化が進展し、公共交通事業者の不採算路線からの撤退等により、交通空白地域及び交通弱者の交通手段の維持・確保が重要となっている。</p> <p>このような状況を踏まえつつ、コンパクトシティといったまちづくりの観点や観光政策といったことについても、公共交通が担う役割が大きいことから、鉄道・バス・タクシーの各公共交通が連携して、当町にとって真に必要な公共交通を構築するため、平成28年5月に「広陵町地域公共交通網形成計画」を策定した。</p> <p>今後、当町では、当該計画に示した事業を円滑かつ着実に進めるとともに、また、地域公共交通確保維持事業による支援を活用しながらコミュニティバスを運行することで、持続可能な公共交通体系を構築していく。</p>